

【ウパニシャッド勉強会まとめ—6月分】

87, 88 回目 (2024 年 6 月 12 日, 19 日)

6月12日「サマーディについてのまとめ」

tri puṭī bheda トリ・プティー・ベータという言葉があります。

トリ (tri : 3)、プタ (puṭa : うつわ、入れもの)、トリ・プティー (tripuṭī : 3つのもの)

ベータ (bheda : 違い) → トリ・プティー・ベータ (tri puṭī bheda : 3つのものの違い)

今の状態は、トリ・プティー・ベータは別々の状態で存在しています。

「ディヤーナ、デーヤ、チャータ」「ギャーナ、ゲーヤ、ギャータ」「バクティ、バクタ、バガヴァーン」の状態です。

しかし、「ベータ」は、その状態がなくなり、1つになります、という意味です。

1つという言葉も使いません。「非二元論的」という言葉を使っています。一元というと、二元、三元と現れますから、一元とは言いません。それは英語で、「non dualism」または「monism」という言葉を使います。

ヴェーダーンタの中で、サマーディという言葉を使わないで、トリ・プティー・ベータという言葉を使うと、サマーディと同じ意味になります。

ニルヴィカルパ・サマーディについて、素晴らしい1つのサンスクリットの節があります。

ūrdhvaḥ pūrṇam adhaḥ pūrṇam madhya pūrṇam yat ātmakam sampūrṇam sa ātmeti samādhiṣṭha lakṣaṇam

ウールドウヴァハ (ūrdhvaḥ : 上に) プールナム (pūrṇam : 満ちた) アダハ (adhaḥ : 下に)

プールナム (pūrṇam : 満ちた) マッディヤ (madhya : 中央に) プールナム (pūrṇam : 満ちた)

ヤット (yat : ※関係代名詞) ~であることは) アートマカム (ātmakam : ~で構成された)

サムプールナム (sampūrṇam : あらゆるところに満ちた) サ (sa : それ) アートマ (ātma : アートマン)

イティ (iti : ~という) サマーディ (samādhi : サマーディ) スタ (ṣṭha : ~を確立した)

ラクシャナム (lakṣaṇam : しるしです)

海の中に入っているポットをイメージすると、pūrṇam は「満ちた」「いっぱい」という意味ですから、海水がいっぱいということですが、海の水はアートマンのことですから、この場合、アートマンでいっぱいという意味です。サマーディの時は、上も下も中もあらゆる所がアートマンでいっぱいです。

samādhiṣṭha lakṣaṇam は、「サマーディのしるしがそれです」という意味です。

私たち多くの信者は、バクティ・ヨーガを実践していますから、ウパニシャッドの中の面白い話を聞くと実践したくなりますが、実践するといろいろと混乱します。

その時は、ウパニシャッドの実践をしないで、バクティ・ヨーガを実践します。その時、ウパニシャッド、つまりギャーナ・ヨーガは、バクティ・ヨーガの実践のヒントに使うことができます。バクティ・ヨーガとギャーナ・

ヨーガの道は違いますが、ギャーナ・ヨーガのいろいろな実践方法を、バクティ・ヨーガの実践で使うこともできます。

例えば、海中のポットはあなたです。シュリー・ラーマクリシュナの信者なら、そのポットの上も下も中も右も左も、シュリー・ラーマクリシュナです。

瞑想の時の大きな問題は集中です。祭壇の前に座っている時、隣に誰かがいたり、他の写真があったりします。しかし、何も他のものを想像しないで、シュリー・ラーマクリシュナだけを想像して下さい。

ギャーナ・ヨーガの実践の時には、アートマンを想像しますが、バクティ・ヨーガの実践の時には、自分の決めた神様を想像します。同じようにイメージすることで、バクティ・ヨーガの実践に使うことができます。

サマーディの状態のイメージ…シュリー・ラーマクリシュナ

次に、サマーディの状態が何であるかは説明ができません。私たちは、聖典からいろんな節を引用して、自分のイメージを作って説明していますが、それが本当のサマーディの状態だと説明できません。

例えば、海は皆さん知っています。しかし海の完璧なイメージはできていません。私たちは普通、海岸から海を見て、海をイメージしています。観光客がいたり、サーフィンをしている人がいたり、遊んでいる人がいたり、お店や木々が見えます。それが本当の海のイメージでしょうか？それでは、海のイメージは不完全です。

本当の海のイメージをしたいなら、船で沖に出て、海に入ります。すると、人も建物も車も木々も何も見えません。上に空、下に海水だけです。

ブラフマン・サムッドラ Brahman samudra (samudra:海) とは、ブラフマンの海、ブラフマン以外何もない。という意味ですが、本当の海のイメージもそうです。

琵琶湖では、そのイメージは分かりません。本当の海は、周りに何も見えません。海水だけです。ブラフマンが海水です。すべてはブラフマンです。ブラフマン・サムッドラです。

協会発行の書籍「ラーマクリシュナの福音」には、シュリー・ラーマクリシュナがサマーディに入っている描写がいくつもあります。30分後や1時間後にシュリー・ラーマクリシュナが普通の状態の意識に戻ると、求道者たちは、サマーディの時の経験はどのようなものか、何を見ているのか知りたいと思っています。その時、シュリー・ラーマクリシュナはどのように話したのでしょうか？

インドは広いので、海を見たことがない人がたくさんいます。海を見たことがない人が「海は何ですか」と質問しました。そのときあなたは、どのように答えますか？

海を見たことのない人に、海を説明するのは無理です。「水がいっぱい、青くて、広くて、舐めるとしょっぱい味がする」と話しても、はっきり海をイメージできません。海が何であるかを説明できません。言葉には限度がありませんか？言葉で説明できないことがありますか？

シュリー・ラーマクリシュナも同じことを言っています。シュリー・ラーマクリシュナがサマーディに入っている描写がいくつもあります。

(例：第六章 ブラフモーの信者たちとともに (一)・第四十七章 弟子たちを訓練する師)

どうして説明できないのでしょうか？

言葉は感覚です。感覚は相対的です。しかし、サマーディは、絶対の存在、絶対の状態ですから、絶対的です。相対的レベルで絶対的なレベルの説明は無理です。それで説明はできません。

「海は、いっぱいの水で深く、波が立っていて、音も聞こえます。」と、少しのヒントだけは言うことができます。しかしそのヒントを聞いても印象は出ません。

サマーディも同じで、それを聞いても、サマーディが何であるか、そのイメージが出ません。

「福音」の中で、シュリー・ラーマクリシュナは、時々イメージを使って説明しています。サッチダーナンダ（絶対の存在、絶対の知識、絶対の至福）の海の中で、魚はとても自由でとても喜んで泳いでいます。サッチダーナンダの海（サッチダーナンダ・シャゴール）で、アートマンの魚が自由になって喜んで泳いでいます。シュリー・ラーマクリシュナはそのイメージを使いましたが、サマーディの状態をその例えで理解することはできません。

サマーディの状態のイメージ…シャンカラチャーリア

シャンカラチャーリアが「ヴィヴェーカ・チューダマニ」の中で、サマーディが何であることを説明しています。シャンカラチャーリアは学者ですが、ニルヴィカルパ・サマーディの経験があるので、言葉は相対的ですが、できるだけその状態のヒントを説明しています。

*kimapi satatabodham kevalānandarūpaṃ nirupamamativelaṃ nityamuktaṃ nirīham |
niravadhigaganābhaṃ niṣkalaṃ nirvikalpaṃ hṛdi kalayati vidvān brahma pūrṇaṃ samādhaui || 408*

永遠のポータであり、絶対的な「至福」の体現

何とも比較できずに、全てを超越して、永遠に解放されており、欲望は持たない

天空のように限界はなく、部分から成らずに、変転することが無い

完全なるブラフマンを、覚知を得た者は、以上のように、サマーディを通して、心の中で察知しているのだ
(ブイツーソリューション発行「識別の宝玉」408 (P381) より)

ある種類の存在を普通は想像できません。その本性は知識です。その知識はいろいろな種類があります。その1つの種類の知識の状態が、ケーヴァラムアーナンダルーパン (kevalamāndarūpaṃ) 至福＝「永遠に神を悟っている状態」です。

私たちは、苦しみ、悲しみの経験があります。心配や恐れが出ると、至福の状態は出ません。しかし、サマーディの時は、ケーヴァラムアーナンダルーパンだけになります。

ニルパマ (nirupama) は、「何とも比較できない」という意味ですから、ブラフマンの例えは、ブラフマンです。海の例えは海です。空の例えは空です。そしてブラフマンは意識ですから、ブラフマンの例えがありません。

アティヴェラム (ativelaṃ) は「無限」。ニティヤムクタム (nityamuktaṃ) は、永遠に解放されており、ニリーハム (nirīham) は、働くことが何もない。ブラフマンは純粹意識ですから「行動、仕事、働き、動く、」は何もありません。

ニラヴァディガガナーバム (niravadhigaganābhaṃ) は、空みたいに関界がない。ですが、本当の空のことでなく、イメージのために、本当ではなく空間のイメージとして使っています。

ニシカラム (niṣkalaṃ) は、段々大きくなならない、段々衰えることもない。普通は、生まれて存在し、大きくなり、変化して、衰えてなくなります。がブラフマンは何も起こりません。いつも同じ状態です。

ニルヴィカルパム (nirvikalpaṃ) は、ブラフマンは何にも影響されない。何も変化しない。

ブラフマ プールナ (brahma pūrṇam) は、完全なブラフマン。疑いや混乱が何もない。サマーディに入るとその時、疑いや混乱は何もありません。

サマードウ (samādhau) は、サマーディの状態の時。

ヴィッドウヴァーン (vidvān) は、自分のアートマンのことを理解しています。アートマンでアートマンの経験ができます。私たちの内部器官 (アンタカラナ) には、心、知性、記憶、自我があります。その背後にアートマンがあります。アンタカラナでは、アートマンのレベルでアートマンを理解できるといいます。しかし、別のアイディアでは、心の中、知性の中、記憶の中、自我の中、すべての中に、ブラフマン以外何もないといえます。

*prakṛtīvikṛtīsūnyam bhāvanātibhāvaṃ samarasamasamānam mānaṣaṃ bandhadūram |
nigamavacanasiddham nityamasmatprasiddham hr̥di kalayati vidvān brahma pūrṇam samādhau || 409*

プラクリティもヴィクリティもなくて、如何なる想像も及ばない

均質であり、何にも凌駕されずに、あらゆる思慮との繋がりを持たない

聖典の言葉にて証明されて、永遠で、我々にとって身近なもの

完全なるブラフマンを、覚知を得た者は、以上のように、サマーディを通して、

心の中で察知しているのだ

(同上 409 (P 382) より)

サマーディの時に何を経験しているのか？サマーディに入ると因果はありません。因果は、すべて相対的です。絶対的に入ると因果は何もありません。

また、普通、感覚や心や知性の対象がいろいろと存在しています。サマーディの時は、ブラフマンの対象のイメージが出ますが、その対象はブラフマンです。しかし、普通、感覚や心の対象とブラフマンの対象は全然違います。

プラクリティヴィクリティシューニヤム (prakṛtīvikṛtīsūnyam) は、プラクリティもヴィクリティもない。

バーヴァナーティータバヴァム (bhāvanātibhāvaṃ) は、どのような知力を尽くしてもそれは理解できない。

サマーラサム アサマーナム (samarasam asamānam) は、サマーラサムは、例がある。アサマーナムは、例がない。それに匹敵するものがない。そのような種類のものです。

マナーサム バンダドゥーラム (mānaṣaṃ bandhadūram) は、理論的なものでない。私たちは、理論を使って正しいか正しくないかを判断しますが、サマーディの状態は、理論で理解できません。

ニガマヴァチャナシッドダム (nigamavacanasiddham) は、聖典の勉強ではできない。ヴェーダもそれを説明できない。ヴェーダを超越しないとサマーディに入れない。

聖典はヴェーダも含め粗大なものです。聖典をたくさん勉強しても、サマーディを経験することができません。ヴェーダも相対的なものです。それならなぜ、聖典の勉強が必要なのでしょう？

聖典から悟るための道を導きます。悟りがあることを知ります。悟りのしるしも分かります。悟りの障害も分かります。悟るためにどのような実践をしなくてはならないのかを、ヴェーダは教えています。悟りの結果が何かも分かります。

しかし、すべて勉強しても、ヴェーダの勉強だけで悟ることはできません。それは、ヴェーダが言葉だけで相対的なものだからです。ブラフマンとサマーディは絶対的なものです。

ニッティヤムアサマトブラシッダム (nityamasmatprasiddham) は、自我のレベルでブラフマンを理解でき、そして自我の存在がなくなり、自我もブラフマンになる。そうしないとサマーディに入ることができません。

フリディ カラヤティ ヴィッドヴァン ブラナム プールナム サマードウ (hr̥di kalayati vidvān brahma pūrṇam samādhau) は、そのように悟った人の経験がある。

ajaramamaramastābhāvavastusvarūpam stimitasalilarāśiprakhyamākhyāvihīnam |

śamitaḡaṇavikāram śāśvatam śāntamekam hr̥di kalayati vidvān brahma pūrṇam samādhau || 410

朽ちず、滅びず、すべての非存在が駆逐された、「現実」そのもの

波一つ立たない水面のように静かで、名称を持たない

グナの変異は鎮められて、途切れずに存在し、平安に満ちた、唯一なるもの

完全なるブラフマンを、覚知を得た者は、以上のように、サマーディを通して、心の中で察知して

いるのだ

(同上 410 (P 383) より)

サマーディに入って悟った人は…アジャラム (ajaram) は、病気がない。アマラム (amaram) はなくならない。アヴァストゥスヴァルーパーン (avastusvarūpam) は、満足した状態。すべての欲望がなくなります。それは、1番満足した状態なので、「それがない、これがない」という考えが出ません。

スティミタサリラーシュリブラクキヤム (stimitasalilarāśiprakhyam) は、波がなく静かな状態。海の状態とブラフマンを比べて、風が吹くと波が立ちます。風がないと海は静かになります。サマーディに入ると同じように静かです。どうして心は波立つのでしょうか？それは欲望や執着があるからです。それが全然なければ心はとても静かになります。サマーディの時は、欲望と執着が100%ありませんから静かです。

マックヤヴィーナム (mākhyāvihīnam) は、言葉では説明ができない。

サミタグナヴィカーラム (śamitaḡaṇavikāram) は、良い性質も悪い性質もない。サマーディに入ると両方の性質を超越します。良い性質と悪い性質は、必ず人の心の中にあります。それでなければ、良いイメージが出ません。そして、良い性質と悪い性質はペアですから、良い性質があれば、潜在意識の中に悪い性質もあります。そのために両方を超越しないとサマーディに入ることができません。

シャーシャヴァタム (śāśvatam) は、永遠。シャントムカム (śāntamekam) は、平安、静か。

メカム (mekam) は、普通の存在がない。非二元論的でその別の例がない。

プールナム ブラフマ フリディ カラヤティ ヴィッドヴァーン (pūrṇam brahma hr̥di kalayati vidvān) は、サマーディで、サマーディに入った人はその経験をします。

これはシャンカラチャーリアが、ヴィヴェーカ・チューダマニで、サマーディの状態に入った人がどのような経験をするかを詳しく説明したものです。

しかし、シャンカラチャーリアが自分の経験で一生懸命説明しても、それを勉強しても、イメージは全然できません。

サマーディの状態のイメージ…スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

シャンカラチャーリアと同じように、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが、自分のサマーディの経験から作

った歌があります。その意味はとても深いですが、歌の意味を説明してもサマーディが何であるか分かりません。

美しく偉大な自然はすべて消え去り、太陽もなく、
美しい月もなく、かすかな光もない
宇宙は虚空に影のように浮かんでいる
心は存在するが、宇宙は存在していながら存在していない
私意識の中で、
宇宙は現れては消え、消えては現れることを繰り返している
しかしやがてその影も消える
わずかに残っていた私意識もなくなり
空は空の中に入る
この状態は心と言葉を超えていて、
経験した者しかそれを理解することはできない

(協会発行「パタンジャリ・ヨーガの実践」P201 より)

その意味はとても深いですが、歌の意味を説明してもサマーディが何であるかわかりません。が、少し説明します。

サマーディに入ると、自然が全部なくなります。自然のシンボルが、太陽と月です。歌の中では太陽と月のことだけを言っていますが、意味は、自然すべてがなくなります。

その時、すべての宇宙は影のように見えます。本当の存在がありません。私たちにも影はありますが、影はありますが、本当の存在ではありません。影はあなたが動くと、影も動きます。あなたが止まると影も止まります。しかし、あなたの体に棘が刺さると痛いですが、影に痛みはわかりません。しかし影は存在しています。

それと同じように、サマーディに入った後、ブラフマンが存在していて、そのブラフマンの影のように宇宙が存在して見えます。もし心が存在していると、心に全部、影のように現れています。

この歌の中に、サヴィカルパ・サマーディとニルヴィカルパ・サマーディのイメージが入っています。

最初は、サヴィカルパ・サマーディの状態の歌詞で、その時は自我があるので、ブラフマンと1つになっていませんから、宇宙は影のように現れています。ある時宇宙が現われ、ある時宇宙がなくなります。宇宙がなくなるのは、1つになっている状態です。そして段々とその状態もなくなり、その後、ニルヴィカルパ・サマーディに入ると全部が1つになります。

そして、最後の歌詞の部分は、その状態を言葉だけではなく、すべての感覚、心でも説明ができません。その経験がある人だけが、その状態を理解できます。サマーディの経験がない人は、それを理解できません。

感覚には限界があります。2つの言葉があります。

swa-samvedya (スワ サムヴェッディヤ) は、自分だけが分かります。その状態がどのようなものか経験がないと、説明ができません。

スワ (swa) は、自分。サムヴェッディヤ (samvedya) は、理解することができる。

para-samvedya (パラ サムヴェッディヤ) は、他の人も理解できる。これは、例えば他の人が病気になって熱が出ています。それは、他の人も熱があるのが分かります。また、顔の髭を剃っていないと、他人は、髭が伸び

ているのが判ります。これがパラ サムヴェッディヤ。しかし、自分は鏡を見ないとわかりません。これは、スワ サムヴェッディヤではありません。

スワ サムヴェッディヤとは、例えば、自分の息子に対するお母さんの愛は、お母さん本人だけがわかります。その息子に対するお母さんの愛を、他の人には理解できません。それは、パラ サムヴェッディヤではありません。同じようにサマーディは、スワ サムヴェッディヤ、自分だけが理解できます。他の人は理解できません。

まとめると、サマーディから戻った人は、「私」と「私のもの」全部がなくなります。「私」と「別のもの」という区別もなくなります。それは、すべては、意識です。ブラフマン、アートマンですから、私も別のものという意識もありません。名前と形がマスクです。そのマスクが違うだけで、そのマスクを外すとみんなブラフマンです。サマーディから戻った人は、はっきりとそのことを理解しています。

悟った人は、仕事をしますが、全部人のために行います。1つも自分のために働くことはありません。その意味で、その人は、カルマをしていません。働いていても（カルマ）働いていません。普通の人の働きの目的は、自分や自分の家族のサポートです。しかし、悟った人は自分をサポートすることが何もありませんから、仕事をしていても非利己的です。それを仕事とは言いません。矛盾する言い方かもしれませんが、悟った人は仕事をしていても仕事をしていません。

サマーディの後でも、スワミー・ヴィヴェーカーナンダはいっぱい仕事をしていました。シャンカラチャールリアもいっぱい仕事をしていました。しかしそれは自分のためではありませんから、仕事ではありません。

そして、すべての心の執着と汚いものがなくなります。汚いものとは、怒り、エゴ、肉欲などです。

それから、すべての無知について、神について、人について、自分についての無知がなくなり、最高の状態になります。同じように、自分について、人生について、ブラフマンについて、宇宙についても、すべての疑いと混乱がなくなります。

悟った人は、ブラフマン以外何も無いのを理解していますから、すべての恐れ、不安、ストレスが消えます。

悟った人が、他の人を殺しても心配しません。自殺しても罪になりません。もちろん悟った人は、人を殺しません。哲学的に考えると、その人が殺されることはありません。それがバガヴァッド・ギーター2章に詳しく書いてあります。

それから、すべての苦しみ、悲しみがなくなり永遠の至福の状態になります。

最後に、Brahmavit Brahmaeva Bhavati「ブラフマンを悟った人は、ブラフマンになります。」

ブラフマヴィット (Brahmavit : ブラフマンを) ヴィット (vit : 悟った人は)

ブラフマイヴァ (Brahmaeva : ブラフマンに) バヴァティ (Bhavati : なります)

その意味は、ブラフマンの本性は、サット、チット、アーナンダです。そのブラフマンの本性が自分の本性になります。その状態は、スワ サムヴェッディヤ、自分だけ経験がある人が、それを理解できます。それが求道者の目的です。ギャーナ・ヨーガを実践する人の目的です。

6月19日「カタ・ウパニシャッドの前に」

今日からウパニシャッドの勉強を始めます。その前までは、ウパニシャッドの勉強の準備についてたくさん話をしました。皆さんは、前の部分を何回も何回も読んで学んで下さい。それをするウパニシャッドの勉強は、スムー

ズにいきます。それをしないといつも混乱します。私の話も無駄になります。

過去の内容、

- 心のコントロール (śama シヤマ)
- 感覚のコントロール (dama ダマ)
- 感覚を対象から引き戻す (uparati ウパラティ)
- 忍耐 (titikṣa ティティクシャ)
- 聖典とグルと自分を信じて尊敬する (śraddhā シュラッター)
- 集中する (samādhāna サマーダーナ)
- 実在と非実在を識別する (nitya anitya vastu viveka ニッティヤ アニッティヤ ヴァストゥ ヴィヴェーカ)
- この世とあの世でのカルマの結果に執着しない

(iha amutra phalabhoga virāgaḥ. イハ アムットラ パラ ボーガ ヴィラーガ)

- 解脱を願う (mumuṣutva ムムクシュトゥワ)

を実践し、さらに、ギャーナ・ヨーガの三段階、

★第一段階：シュラヴァナ (śravaṇa：真理について師から聞く)

★第二段階：マナナ (manana：頭でよく理解できるまで熟考する)

★第三段階：ニディッダーサナ (nididyāsana：頭で理解できたことを繰り返し深く瞑想する)

などを、私たちは、3年間勉強してきました。

全部覚えることはできませんが、自分のために本気で勉強したいなら、おさらいをして下さい。この言葉は、どういう意味か？それは何か？それはどういうことか？と考えて下さい。そうすることで、ウパニシャドの勉強が、良く進みます。

時間がない、時間がない、と言って怠けてはいけません。もし、大事な仕事なら、絶対時間を作ります。勉強する時間がないのは、本当は「興味がない」からです。誰かが助けると自分のレベルが深くなりません。勉強は自分の人生を助けるために必要です。

最初は、シヤマ、ダマ、などの言葉をピックアップして、他人に任せないで、自分でまとめを作って下さい。そして、それを見直してください。

次から、カタ・ウパニシャドから始めます。その前に、「ウパニシャドの勉強の時にどのような問題があるか」を説明します。

日本ヴェーダーンタ協会から出版されているウパニシャドの本は、サンスクリットの原本から翻訳されているものではありません。昔、ハリウッドセンターの長である、スワームー・プラバヴァーナンダジがアメリカの信者のために、ウパニシャドの重要な部分だけを抜粋して出版した本を、日本語に翻訳したのが、日本の協会から出版しているウパニシャドです。その本の中で、何章の何節かも書かれていません。ですから、本当は完璧な翻訳ではありません。

ブリハドアーラニヤカ・ウパニシャドやチャンドーギヤ・ウパニシャドなどは、ページ数が大きな聖典です。それを全部翻訳すると、皆さんのやる気がなくなります。また、「ウパニシャドとはどういうものか」を知りたいという人もいますから、その人たちのために作りました。

本当のウパニシャドの勉強をしたいなら、最初から最後までサンスクリット語の原本で勉強したほうが良いです。また、ウパニシャドの意味は、「先生の近くに座って一緒に勉強する」ということです。それは、先生から

神聖な波動が出るからです。その波動がとても大切です。

科学などは zoom で聞いても構いません。しかし、聖典の勉強は直接先生から聞いた方が良いです。zoom 講義を聞くのと、いろいろな会場で直接聞くのでは、印象が大きく違います。

昔、ウパニシャドは、たくさんありました。「ムクティーカー・ウパニシャド」という本のリファレンスの中に 108 のウパニシャドがありましたが、今はほとんど残っていません。今、有名なウパニシャドは 12 だけです。その中に、「カタ・ウパニシャド」があります。

そのウパニシャドの注釈を、聖者シャンカラチャーリアが作成しました。どうして注釈が必要なのでしょう。それは、日本と同じで、昔の言葉と今の言葉は違うからです。日本語でも、昔の古文を、今は読むことも理解することもできない人がほとんどです。

英語もサンスクリット語も同じで、言葉は進化しています。ですから、昔のサンスクリット語で作成した聖典の勉強は、自分でサンスクリット語を勉強してもできません。そのために注釈が必要になりました。

もう 1 つは、単に翻訳の言葉の意味を理解しても、そこに深い意味が何であるか、言っていることを理解することができません。皆さんがインド大使館や大阪の勉強会の時などに、バガヴァッド・ギーターを勉強していて、その深い意味を知った経験があると思います。

バガヴァット・ギーター 5 章 25 節の中に、「sarva-bhūta-hite ratāḥ (サルヴァブータ ヒテータタハ：生類すべての幸せのために働く聖者)」という日本語の翻訳があります。その深い意味が何であるかをインド大使館の講話で 3 回に渡って説明しました。

また、バガヴァッド・ギーターの注釈を作った、Madhusūdana Sarasvatī (マドゥスーダナ・サラスヴァティー) は、とても有名な学者であり、聖者でした。ギーターの 1 つの節の注釈に 10 ページから 15 ページぐらいのテキストを書いています。ですから、バガヴァッド・ギーターすべての注釈は、膨大な厚さの本になります。それ以外に注釈書は、他にもたくさん本が出ていますから、勉強したい人は、その分厚さに怖れをなして諦めてしまいます。

また、哲学者の意見も、哲学の学派によっても解釈がバラバラです。シャンカラチャーリアは非二元論、マドゥヴァーチャーリアは二元論哲学、ラーマヌージャチャーリアは限定非二元論です。

これら聖者の注釈者は、有名ですから、知りたいと思います。しかし、シャンカラチャーリアの言うこと、ラーマヌージャの言うこと、マドゥヴァーチャーリアの言うことを合わせて理解するのはとても難しいです。それを勉強すると、とても混乱します。

私たちにとって、どの注釈が大切かを知るために、最初に準備が必要です。そして、学者になりたいなら、いろいろな注釈の勉強をしますが、普通の信者は目的が違いますから、ウパニシャドの勉強をする前に、どのような問題があるか、また、多くのチャレンジが必要であることを理解してもらうために、このような説明をしています。

ウパニシャドやギーターは素晴らしい本ですが、少し読んだだけでは深い意味が理解できませんから、すぐに読むのを止めてしまったり、勉強を諦めてしまったりしてしまいます。そのようなことがないように話しています。

カタ・ウパニシャドの基礎知識

次にカタ・ウパニシャドについて、そのカタ・ウパニシャドはどこに書かれているのでしょうか？

インドの聖典ヴェーダには「リグ・ヴェーダ」「サーマ・ヴェーダ」「ヤジュル・ヴェーダ」「アタルヴァ・ヴェーダ」の4つのヴェーダがあります。

そのヴェーダの中には、「ヴェーダ・サムヒター」という本体部分と、「ブラフマナ、アーランニヤカ、ウパニシャド」という注釈、解説、思想哲学の3つの付属部分に分かれています。

カタ・ウパニシャドは、ヤジュル・ヴェーダの中の「ウパニシャド」の部分にあります。そして、ヤジュル・ヴェーダにも2つあり、「クリシュナ（黒）・ヤジュル」と「シュットラ（白）・ヤジュル」と2つのヴェーダがあります。カタ・ウパニシャドは、「クリシュナ・ヤジュルヴェーダ」の中にあります。

また、「カタ」とはどういう意味でしょうか？

ちなみに他のウパニシャド「プリハドアーランニヤカ・ウパニシャド」のプリハドは「大きい」、アーランニヤカは「森に入って勉強する」という意味で、そのタイトルの名前でイメージできます。

「ブラシュナ・ウパニシャド」は、ブラシュナとは「質問」という意味で、いろいろな質問があります。

「ケーナ・ウパニシャド」のケーナは「どうして」という意味です。

では、「カタ」とは？その名前の聖者が作ったという説もありますが、はっきり理由は分かっていません。

そしてシャンカラチャーリアがいろいろなウパニシャドの注釈書を作りましたが、その中で1番有名なのがカタ・ウパニシャドです。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダも、カタ・ウパニシャドが大好きでした。カタ・ウパニシャドの中にナチケータという名前の若い男の子がいます。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、講演のとき何回も何回もその話を引用して話していました。

カタ・ウパニシャドはどのようにして有名なのでしょうか？

「サンスクリット語の言葉が分かりやすい。」

「カタ・ウパニシャドの中には、ヴェーダーンタのすべての内容が入っています。」

「物語形式で始まっているので面白い。」

「皆さんが知りたい、人生についての内容が入っています。」

それは、いつかは誰にでも訪れる「死」について、死後、私たちはどうなるのか、100%無くなってしまうのか、ある部分は続くのか、疑いや心配や混乱がありますが、死神はよく知っていますから、死神にその質問をします。死後のことを知りたいなら、カタ・ウパニシャドを勉強しないとイケません。

また、無知とは、知識とは何か、求道者はどのような準備が必要か、どのような実践をするのか、実践の障害は何か、実践の後、悟った後はどのような結果になるのか、など、大事な真理についての内容が書かれています。